

第3回 幼稚園教諭・保育士合同研修会 (7月5日 池上会館 121名参加)  
 テーマ「つながりあそび・うたの中で…～泣いて笑って～」  
 つながりあそびうた研究所 町田 浩志先生

まずは自分自身が楽しもう！参加者同士交流しよう！という講師のテーマのもと、「ドレミのうた」を手遊びしながら歌う。続いて、「こんにちは よろしくね」「家族家族 何の家族」「入れて いいよ またね」のつながりあそびを行う。遊びの中で、挨拶、握手、手をつなぐ、ペアになる、最後には全員で手をつなぎ大きな二重円になる。皆で歌いながら、楽しく触れ合えるあそびうたを進めていくにつれ、参加者の表情が笑顔に、笑い声が溢れてくる。「家族家族 何の家族」では、ジャンケンして、グー、チョキ、パーを出した人同士で集まり、どこの家族(グー、チョキ、パー)が一番早く集まるかを競う。家族は色、誕生月等、何でも変えて行う。「入れて いいよ またね」では、2人で手をつないでいる中に一人が入り3人でジャンケンをする。負けた人は、他の2人組に「入れて」と言い、「いいよ」と入れてもらいジャンケンをし、繰り返す。別れる際「またね、さよなら」と言う。2人組は「空いているよ～」と、教えてあげる。\*止める・注目させたい時は、「大きな拍手パンパンパン」「座って拍手パンパンパン」と、拍手音で気付かせる。「空いているよ～」と、教えてあげられる子どもにしよう。声を出し呼んだり返事をしたりする事がポイント。



「入れて いいよ またね」

親子遊び「せんたく」乳児バージョン 2人組で前後に座る。前は子ども、後ろは親・先生  
 一 歌に合わせて後ろの人がくすぐる。交代して行う。

幼児バージョン 2人組から4人組になり立って手をつなぐ。「洗って」手を揺らす。「一回り」その場で回る。「すすいで」両手をブルブルさせる。「干して」手を離さずにジャンプする。「干して」もっと高くジャンプする。  
 一 8人組になって繰り返す。最後はクラス全員で丸くなる。



「おこのみやき」

親子遊び「おこのみやき」(子どもと親・先生役になって) 2人組でジャンケンをし、負けた人はうつ伏せで寝る。勝った人はお好み焼きを作る。「じゅじゅじゅー」お尻を触る。「ひっくり返して」仰向けにする。「ソースをぬって」「かつお節かけて」「青のりかけて」「マヨネーズかけて」体を触ったりくすぐったりする。「召し上がれ」むしゃむしゃ食べ、「よっこらさ」起こしてあげ、「ごちそうさまでした」→交代する。  
 \*遊ばせるのではなく、夢中になって遊び込める。最近遊び込んでいますか？遊び込むことを大切にしたい。  
 \*くすぐられる、くすぐる関係をいっぱい作ってほしい。くすぐられる感覚が好きということではなく、大好きな親・先生がくすぐってくれるから嬉しいと、心が許している関係。  
 \*肢体不自由な子には「洗って洗って」で、体を触ってあげる。

※遊びが主役ではない、子どもたちが主役。子どもたちに遊びを合わせる。また、何歳児向けということではなく、配慮しだいで、何歳児でも可能になる。

つながりあそびの合間の講師の話

☆ルールは大事で必要だが臨機応変に！

2011.3.11 東日本大震災、女川の小学校の話～校長は、宮城沖地震の経験者だった。子どもたちが、津波を見てPTSDにならないように、校長の指示で先生たちが一番後ろでブルーシートを持って避難した。ハザードマップ通りではなく裏山に登らせた。今の子どもたちはAIの時代を生きるのだから、自分で考える癖をつけよう。

☆困っている人がいたら助けよう。☆保育はおせっかいです。サービスではない。手を出し、保育士は臨機応変に。ひらめき、命を預かる仕事、重いです。[園児送迎バス事件のドライバー；声を掛けたら良かった。]今は言葉がない。会話していきましょう。マスクをしていることで言葉が足りない。自分でアンテナ立てないと知らないうちに言葉が失われる。勘違いなど、周りの人と会話して、聞いていくことを意識していきましょう。

☆保育は文化一人から人へ伝えないと無くなる。おんぶが無くなっている。昔は肩口から子どもが外を見えたが、縦(前)抱っこになり、段々、子どもが低くなっている。

☆先生同士で雑談できていますか？今日の保育の話、会話で対応しましょう。分からなければ先輩に聞く。聞くは一時の恥。真似るは学ぶ。後輩に伝えてください。間違える⇒大事なこと、いっぱい恥をかいてください。失敗する姿を子どもたちに見せてください。だって、人間だもん。

☆保育は一人ではなくチームワーク。チームワークは会話から生まれる。～相手を変えることはできない。変えるのは、自分の言葉と態度。

<いいいいないばあ> 無いものが現われる。どこから顔が出てくるか、驚かせたり笑わせたりするためではなく、私を見つけてほしい。承認してほしい。安心してほしい。という意味。

<あっぷっぷ> 目を合わせるように昔の人が考えた。

<高い高い> 高さを競うためではなく、黒目と黒目を合わせ、視点を合わせることで、安心感を得る。

参加者の感想から

- ・テーマの「自分自身が楽しもう」そのものの研修だった。この楽しさを早く子どもたちに伝えたい、一緒に楽しみたいと思った。「保育は文化」もう一度その意味と自分で出来ることを考えていきたい。
- ・初対面の人と一緒に歌ったり遊んだりすることに戸惑った気持ちは、子どもが感じるのと同じだと思った。まず、自分が楽しいと思ってやって相手の表情を見て感じようと思ったら、楽しい時間変わった。
- ・合間の先生の深い話は、胸に刺さることが沢山あり、子どもたちに遊びを合わせることや遊び込めることの大切さを改めて考える良い機会になった。